

# 【小陰唇形成術(小陰唇縮小術)説明書・同意書】

## 1. 小陰唇とは

小陰唇は、膣口の左右にある薄い皮膚のひだで、尿道口や膣口を保護する役割があります。

大きさ・厚み・色・左右差には個人差が大きく、医学的には多くが正常範囲です。

しかし、以下のような症状がある場合、治療の対象となることがあります。

- 下着・運動時の摩擦による痛み
- 自転車・乗馬などでの擦れ
- かぶれ・炎症を繰り返す
- 排尿の飛び散り
- 見た目の悩みが強い
- 性交時の痛み

## 2. 小陰唇形成術(縮小術)とは

小陰唇の余剰部分を切除し、形を整える手術です。

当院では、出血が少なく、周囲組織へのダメージが少ない方法を採用しています。

### 手術の目的

- 摩擦・痛み・かぶれなどの症状改善
- 清潔性の向上
- 左右差の調整
- 見た目の改善

## 3. 手術方法

- 局所麻酔下で行います。
- 余剰部分をデザインし、切除します。
- 吸収糸または細い縫合糸で丁寧に縫合します。
- 手術時間は 約 40～60 分 です。
- 必要に応じて副皮(陰核包皮)の調整を行うことがあります。

## 4. 術後の経過

## 当日～3日

- 腫れ・軽度の痛み・内出血が出る場合があります。
- シャワーは当日から可能(患部は濡れても問題ありません)。
- 入浴は1週間後から。

## 1～2週間

- 腫れは徐々に軽減します。
- 糸は自然に溶けるか、抜糸が必要な場合は1週間後に行います。

## 1ヶ月

- ほぼ通常の生活に戻ります。
- 性交・激しい運動は4週間後から。

## 5. 期待できる効果

- 摩擦痛・かぶれの改善
- 清潔性の向上
- 左右差の改善
- 見た目の改善による心理的負担の軽減

## 6. 合併症・リスク

医療行為である以上、以下の可能性があります。

- 出血・血腫
- 感染
- 創部離開(傷が一部開く)
- 縫合糸の露出・刺激
- 左右差の残存
- 過矯正／不足矯正
- 傷跡の硬さ・色素沈着
- 感覚の変化(通常は一時的)
- 再手術が必要となる場合

## 7. 代替治療

- 経過観察
  - 下着・生活習慣の調整
  - 保湿・外用薬による刺激軽減
- ※根本的な形の改善は手術以外では困難です。

## 8. 費用について

※自費診療(保険適用外)

- 小陰唇形成術(片側): 80,000 円
- 小陰唇形成術(両側): 150,000 円

(他麻酔・薬剤料が別途かかります。)

## 9. 手術を受けられない可能性がある方

- 妊娠中・妊娠の可能性がある
- 感染症・皮膚炎が強い
- 出血傾向がある
- 全身状態が不良
- 医師が不適切と判断した場合

## 10. 同意事項(患者様記入欄)

私は、上記の説明を受け、以下の内容を理解しました。

- 小陰唇の形状には個人差があり、医学的に異常とは限らないこと
- 手術の目的・方法・効果について理解した
- 合併症・リスクについて説明を受けた
- 完全な左右対称は保証されないこと
- 術後の経過には個人差があること
- 再手術が必要となる可能性があること
- 自費診療であり、費用について理解した

私はこれらを理解し、手術に同意します。

患者氏名: \_\_\_\_\_

署名日: \_\_\_\_年\_\_月\_\_日

醫師名：\_\_\_\_\_